

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年11月27日更新

事務事業名	子ども読書まつり実施事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	3	教育の健康		所属部	教育委員会	課長名 岐部則夫
	施策	10	生涯学習の推進		所属課	生涯学習課	担当者名 緒方 初美
	施策の柱	37	学習の啓発と参加機会の提供		所属班	図書館班	(内線) 1540
予算科目	会計一般	款10	項5	目8	事業連番10807	根拠法令 図書館法第3条(図書館奉仕)、合志市立図書館条例第5条	成果優先度評価結果: ② コスト削減優先度評価結果: ①
終了、開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 28年度で終了 <input type="checkbox"/> 28年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)	

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	ウィーブル2階全域を使用して子どもたちにいろいろな体験を通して読書活動についての関心と理解を深めてもらおうと、各種催しを行う。(おはなし会、主人公体験、小物作り、かぼくんの食育など)平成29年5月子どもの読書活動の推進及び図書館利用の促進を図る目的により開始された。(5月第2日曜日に実施計画をしていたが、熊本地震のため中止した)行政改革大綱や集中改革プランにより平成29年度より指定管理者制度を導入。本事業は、指定管理業者に移行される。平成29年度より図書館管理運営委託事業(11716)に統合
【業務の流れ】	当年度の催し物実施内容を検討決定、チラシ等の作成及び合志市立各小学校、保育園等へ配布する。図書館利用者・市役所職員等へ協力者(ボランティア)を募集して、材料の購入及び各種催し物の下準備、会場設営、当日各催し担当者職務遂行、後片付け・報告書作成(平成28年度は、熊本地震により中止)
【主な予算費目】	需用費(消耗品費・印刷製本費・食料費)(平成28年度は、熊本地震により中止)
【意見や要望】	全国子どもの読書週間の次期に合わせて、図書館職員が主になり、読書ボランティアや一般のボランティアが協力して実施している。人員配置の都合で一日だけの開催であることは、準備に要する手数を考えると勿体ないし、参加者が限られる。開催時期についても、毎年第2日曜日と設定しているが、他の行事との兼ね合いや、児童生徒の繁忙期に当たるので考慮を要する。(平成28年度は、熊本地震により中止)

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1)事務事業の目的と指標	新規・拡充区分:
①手段(主な活動)28年度実績(28年度に行った主な活動)(DO)	29年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
「ウィーブル」2階全域を使用して①おはなし会②主人公体験③小物作り④ブックトークと絵本の展示	行政改革大綱や集中改革プランにより平成29年度より指定管理制度を導入。本事業は、指定管理業者に移行される。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 行事参加者数(延べ人数)	人 (11716) 図書館管理運営委託事業 に統合されるため。
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
市民	(単位) 人
	→ ア: 開催日の図書館利用者
	イ: 合志市内の乳幼児から小・中学校の児童生徒数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
積極的に読書活動を推進する。	(単位) %
	→ ア: 合志市内の乳幼児・小・中学校の児童生徒数に対する参加者の割合
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠	
	総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2)各指標・総事業費の推移	単位	26年度実績(決算)	27年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	28年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	予定	見込	見込
①活動指標	人	924	791	1,000	0				
②対象指標	人	129	110	200	0				
	人	10,353	10,798	9,100	0				
③成果指標	%	0	0	21	0				
投資入費量	国庫支出金	千円							
	都道府県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円							
	繰入金	千円							
	一般財源	千円	69	86	94	14			
	(A)事業費計	千円	69	86	94	14			
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0			
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0			
	正規職員従事人数	人	3	3	2	0			
延べ業務時間	時間	608	608	0	0				
(B)人件費計	千円	2,422	2,257	0	0				
トータルコスト(A)+(B)	千円	2,491	2,343	94	14				

事務事業名	子ども読書まつり実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------	-----	-------

## 2 評価の部 (CHECK)

\*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】 平成28年度は、熊本地震のため中止した。
	②29年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 「子ども読書の日」関連行事として、市民に定着している。
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 予算の有効活用の観点から、対象者がより参加しやすい状況設定をし、参加者数増加を図る。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 事業の規模を拡大しすぎたので、事業の内容を検討する。他の類似事業との連携の可能性はある。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 事務事業の開始時点において、住民ボランティアの協力を得て、必要最低限度の予算で運営してきた。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 指定管理者制度の導入により削減の余地あり
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 図書館法により無料の原則に則って運営している。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 指定管理者制度の導入により見直しの余地あり。

## 3 評価結果の総括 (CHECK)

図書館をあまり利用しない子ども達に図書館の魅力を知ってもらう良い機会になっている。また、運営についても図書館職員を中心に多くのボランティアの協力で安価に抑えることができています。

## 4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止   休止   目的再設定   事業統廃合・連携   事業のやり方改善 (有効性改善)  
事業のやり方改善 (効率性改善)   事業のやり方改善 (公平性改善)  
現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策